令和６年度入学試験問題

選択科目　国語
（２科目入試）

※ 数学の問題は，本冊子の反対側にあります。

注　　意

1．合図があるまで表紙をあけないこと。

2．解答はＨＢの黒鉛筆もしくはシャープペンシルで解答用紙の問題番号に対応した解答欄にマークすること。

3．解答用紙に解答以外のことを書いた場合，その答案は無効とする。

4．受験票および願書に記入した１教科を選択し，その解答用紙に受験番号と氏名を記入すること。

5．受験票は机上に出しておくこと。

6．国語【国語総合（古文，漢文を除く）】は１ページから20ページで，問題番号は１番から42番までとなっている。

国語

（その1）

一

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

デュピュイ(注1)は一般的な時間の概念を「歴史の時間」と呼び、その特徴を、「過去を固定したものであるとみなす」という点に見出す。しかし、これとは異なる時間の概念もまたありうる、とデュピュイは指摘する。それは、「翌日の道路の混雑状況、次の選挙の結果予想、物価上昇率、経済成長率、温室ガス排出量の推移といった、近い未来がどうなるかを宣言する、多かれ少なかれ信頼に足るとされた声」、つまり予言が立脚している時間性である。デュピュイはこの時間性を歴史の時間に対して「投企の時間」と呼ぶ。この場合に固定されているのは過去ではなく未来である。［①］次の選挙の結果を予測するとき、選挙の結果は固定されたものとして提示されるが、その予測を見て今日――つまり未来から見れば過去――私たちが誰に投票するかは固定されていない、ということになる。

（中略）

投企の時間は予言が前提とする時間性である。予言は単に真実を伝えるだけではなく、それによって現在に影響を与え、予言されているところの未来に自ら影響を与える。選挙結果の予言は、多くの場合、予言された未来を実現するための手段として、予言が行われる。つまり、予言するという行為は、予言された未来の実現の原因になるのだ。その意味において予言には「行為遂行的（パフォーマティヴ）な力」が備わっており、それは「何かを言うことで、それを存在させることになる言葉の力である」。

デュピュイは破局を運命として予言することを、その破局を回避するための方法として提唱している。デュピュイは破局回避におけるこうした予言の重要性をヨナスの「恐怖に基づく発見術」から着想している。こうした「不吉な予言」もまた、それが予言された未来の実現に影響を与えるという意味で、[1]投企の時間のループ構造に立脚している。ただし、ここで重要なのは次の点である。すなわち不吉な予言は、その予言をすることによって未来を実現させるのではなく、実現させないために行われる。デュピュイはここに、あるパラドクスが潜んでいると指摘する。

次期の選挙結果に関する予言が、その結果を実現させるために行われ、そして実際に人々の投票行動を誘導し、予言された選挙結果を実現したとしよう。その場合、最初になされていた予言は最初から正しかったということになる。これに対して、不吉な予言、すなわち予言されている未来を実現させないために行われる予言はどうであろうか。たとえば原発事故の回避を例に考えてみよう。原発事故が近い将来に必ず起きると予言することによって、その予言を聞いた人々が行動を変容させ、有効な対策を講じ、この予言の実現を回避できたとする。［②］、そうした回避に成功してしまったら、予言されていた原

発事故は起きないのであり、そもそも予言は最初から正しくなかったということになる。

そうであるとしたら、人々は正しくない予言に従わなければならないのだろうか。［③］、たとえ予言がなされている段階ではそれがもっともらしく聞こえても、結局は嘘のために踊らされていただけということにはならないのだろうか。ここに不吉な予言のパラドクスが存在する。すなわち、「破局を防止することに成功するのであれば、それが実現しないことによって破局はありえないものの領域に追いやられることになり、防止のための努力は、遡ってみれば、やる必要のない無駄なことだったと映る」のである。

デュピュイはこの矛盾を「ヨナスのパラドクス」と名付け次のように述べている。

これは、単にハンス・ヨナスという二〇世紀ドイツの哲学者ばかりでなく、イエス・キリストの八世紀前の先行者である聖書の預言者ヨナをも参照したものである。彼ら二人は同じひとつの、不幸の予言者なら誰もが直面するジレンマに直面していた。この予言者は、将来の破局が抗いがたい未来のうちにすでに書き込まれていると告げねばならないのだが、それはこうした破局が生じないようにするためなのだ！（中略）直観が私たちに語るところによれば、このパラドクスは、過去における予期と未来における出来事のあいだでつながれるべきループがつながれていないことに由来する。「もし私たちがその実現を妨げたら、それは未来ではない！」。

こうしたパラドクスが存在するために、不吉な予言は自らの信憑性を失う。デュピュイの見る限り、ヨナスはこのパラドクスを克服できていなかった。それでも破局の回避のために不吉な予言の有効性を立証するためには、私たちはどのように発想を転換させていったらいいのだろうか。

不吉な予言のパラドクスを整理してみよう。破局は未来における運命として予言されなければならない。そうした予言が行われる目的は、その予言を聞いた人々が行動を変容し、この破局の実現を回避することである。しかし、もしも予言が真実であり、本当に破局が運命であるのなら、それを避けることは最初から不可能であり、予言の目的は達成されないことになる。一方で、もしも予言の目的が達成され、破局の回避に成功するならば、予言は運命ではなかったことになり、その予言に基づいて人々が行動を変容させる必要もなかった、ということになる。すなわち不吉な予言は、それが的中してもしなくても、［Ⅰ］に陥るのである。

ところでこのパラドクスは次のような前提に基づいていることに注意されたい。つまり、運命はすべてがあらかじめ必然的に決定されており、もはや変えることができない、ということだ。あるいは、言い換えるなら、途中で何かを変えることができたのなら、それは必然的な運命ではなかったということにな

る、ということだ。

デュピュイは[3]不吉な予言のパラドクスを解決するために、まずこの前提に［　Ⅱ　］。彼が着目するのは、運命が帯びる必然性と、そこに不可避に関与する「偶然性」との関係である。

［　Ⅲ　］にある。ここでは、核によるアポカリプス[注2]を必然的であると同時に蓋然的ではない出来事として捉えることが肝要となる。このような形象はそれほど新しいものだろうか。私たちはそこに造作もなく悲劇の形象を認めることができる。オイディプス[注3]が宿命の十字路でみずからの父を殺すとき、カミュ[注4]の『異邦人』ムルソーがアルジェの太陽の下でアラブ人を殺すとき、これらの出来事は地中海的な意識および哲学には、偶発的な事故であると同時に宿命として現れている。すなわち、偶然と運命とがそこでは混じり合うのだ。

この謎を解く鍵は、存在的抑止の核心にある運命と偶発的な事故との

デュピュイはここで破局を「[4]必然的であると同時に蓋然的ではない出来事」として捉えることを提唱する。必然的であるということは、それが起こらないことが不可能であるということを意味している。それに対して「蓋然的」でないということ、言い換えるなら蓋然性が低いということは、破局の生起には不確かさが伴うということである。その不確かさは「偶発的な事故」と呼ばれている。

どういうことだろうか。デュピュイはそれを「悲劇の形象」によって説明している。たとえば彼が挙げているオイディプスの物語について考えてみよう。

（中略）

オイディプスは自らの父親を殺すという運命を予言されていたが、それが成就するのは、たまたま出会って殺害したのが実の父親であった、という、ほとんどありえそうもない出来事によってである。【1】そもそも、たまたま父親と出会ってそれを殺害する、ということ自体が予言で語られていたわけではない。【2】そして、オイディプスがそこで出会い殺害した人物は、父親以外の人物でもありえたはずである。【3】オイディプスにとって、父親を殺害するということは必然的であったが、しかしそれが旅の途中でたまたま出会った者を父と知らずに殺害することだった、ということは、あくまでも偶然である。【4】そのように考えてみると、必然的な運命が成就するためには、そこにそれ以外でもありうるような偶然が関与していなければならない、と考えることができる。【5】

そうであるとしたら、必然性と偶然性は矛盾するものではなく、［④］、偶然性がある種のトリガー(注5)となって必然性が成就する、ということになる。言い換えるなら、必然的な運命は、それが成就するために、それ以外でもありうるような偶然性を必要としているのである。デュピュイは次のように述べる。「偶然（hasard）に連なる偶発的な事故は、必然に連なる運命の反対物である。しかしこの反対物がなければ運命は成就することがないだろう」。

ここには不吉な予言のパラドクスを回避する鍵がある。なぜなら、「アポカリプスの運命を早めるためには偶発的な事故（アクシデント）がなければならないが、運命とは異なり、偶発的な事故は起こらないこともありうるのである」。［⑤］、ある破局が必然的な運命として予言されたとき、私たちはその破局の実現を回避して、運命を変え、それによって予言が最初から間違っていた、それは最初から運命ではなかった、と考えてしまうが、私たちがそのときに変えたのは運命ではなく、その運命のトリガーとなる「偶発的な事故」なのである。そのように考えれば、必然的な破局の予言と、その予言による破局の回避は、少なくとも論理的には矛盾なく両立する。

（戸谷洋志『原子力の哲学』による）

（注1）デュピュイ――フランスの哲学者。
（注2）アポカリプス――新約聖書のヨハネ黙示録などに描かれる終末。ここでは核による人類絶滅などの大惨事のことを意味する。
（注3）オイディプス――ギリシア悲劇の主人公。
（注4）カミュの『異邦人』――フランスの小説家カミュの小説。
（注5）トリガー――ある物事を起こすきっかけとなるもののこと。

＊　問題作成上の都合により、本文の一部に手を加えてある。

問1　空欄①～⑤を補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つずつ選びなさい。ただし、同じものを二度以上選んではならない。解答番号は①－［1］　②－［2］　③－［3］　④－［4］　⑤－［5］。

a　むしろ　　b　あるいは　　c　たとえば　　d　しかし　　e　つまり

問2　傍線部1「投企の時間のループ構造」とあるが、この構造の説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 6 。

a　投企の時間は、過去から現在、そして未来へと一直線に進む特徴を持つ一般的な時間とは異なり、未来から現在、そして過去へと循環を繰り返すことになる。

b　投企の時間は、近い未来がどうなるかを宣言する予言を前提とし、その予言という行為が現在に働きかけ、自らが予言している内容に影響を与えることになる。

c　投企の時間は、行為遂行的な力を備え持っているため、予言を条件としながら、真実を伝えようとするのではなく、何かを言うことが重要な意味を持つことになる。

d　投企の時間は、過去を固定したものであると見なそうとする歴史の時間とは異なり、過去ではなく未来を固定し運命として甘受しようとすることになる。

e　投企の時間は、予言を拠(よ)り所としており、その中では予言された未来を実現するための手段として予言が作用し、必ず予言された内容を実現することになる。

問3　二重傍線部i、iiのここでの意味として最も適当なものを、後のa～eのうちから一つずつ選びなさい。解答番号は　i－7　、ii－8　。

i　踊らされていた
a　まわりから詰められていた
b　何よりも面子を潰されていた
c　盛んに囃し立てられていた
d　いいように揶揄されていた
e　思うように弄ばれていた

ii　ジレンマ
a　板ばさみになって進退きわまること
b　食い違いが起こり行き詰まってしまうこと
c　隔たりがどんどん大きくなっていくこと
d　目先に惑わされ本末転倒が生じていること
e　訳がわからず悪循環に陥っていること

問4　傍線部2「こうしたパラドクスが存在する」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は　9　。

a　不吉な予言は、予言されている未来を実現させないために行われるが、その予言が正しいのか正しくないのかは前もってわからないということ。
b　不吉な予言は、過去における予期と未来における出来事のあいだにつながりをつけようとするが、実際には両者はつながれていないということ。
c　不吉な予言は、将来に起こってほしくない破局が生じると告げるが、未来にはそのようなことが起こるかどうかはその時になって初めてわかるということ。
d　不吉な予言は、予言を聞いた人々が行動変容を起こし、予言の実現を回避すると、予言は実現せず、予言は運命ではなかったことになるということ。
e　不吉な予言は、破局を未来における運命として告げるが、運命は全てがあらかじめ必然的に決定されており、予言とは言うことができないということ。

問5　空欄Ⅰを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 10 。

a　自己疎外　　b　自己嫌悪　　c　自己矛盾　　d　自己破産　　e　自己批判

問6　傍線部3「不吉な予言のパラドクスを解決する」とあるが、どのようにして解決するのか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 11 。

a　ある破局は、全てがあらかじめ必然的に決定されておりどうすることもできず、変えることは絶対にできないという前提を崩せばよい。
b　ある破局は、運命が帯びる必然性と、そこに不可避に関与することになる偶然性との関係によって起こるという考え方を変えればよい。
c　ある破局の回避は、運命を変えるが、その回避によって予言が最初から間違っていた、最初から運命ではなかったと修正すればよい。
d　ある破局は、偶発的な事故によってもたらされるが、それを偶発的ではなく、起こるべくして起こった出来事であると捉えればよい。
e　ある破局の回避は、必然的な運命を変えたのではなく、それを引き起こしたかもしれない出来事を変えただけであると考えればよい。

問7　空欄Ⅱを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 12 。

a　メスを入れる　　b　鉄槌（てっつい）を下す　　c　ブレーキをかける　　d　楔（くさび）を打つ　　e　錨（いかり）を下ろす

問8　空欄Ⅲを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 13 。

a　二律背反　　b　相関関係　　c　弁証法　　d　照合作業　　e　弥縫（びほう）策

問9　傍線部4「必然的であると同時に蓋然的ではない出来事」とあるが、この出来事の説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 14 。

a　オイディプスが、宿命の十字路で実の父親を殺してしまうというのは、予言で既に決められており、運命の必然としか考えられない。
b　オイディプスは、父親を殺害すると予言で語られていたわけではないが、偶然父親に出会ってしまったために父親を殺すことになった。
c　オイディプスは、旅の途中で出会った者が誰なのかわからないまま殺害してしまうというどうすることもできない運命の下にあった。
d　オイディプスが、自らの父親を殺すという運命が成就してしまうのは、ありえそうもない出来事がそこに関与したためである。
e　オイディプスは、誰かを殺害してしまうという不吉な予言を告げられはしたものの、それが父親であったのは偶発的な事故であった。

問10　次の文は、本文中の【1】～【5】のどこに入るか。後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 15 。

しかし、結果的に運命は成就し、その運命はやはり必然的だったのである。

a　【1】　b　【2】　c　【3】　d　【4】　e　【5】

問11　本文の内容と一致するものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 16 。

a　デュピュイは、歴史の時間と投企の時間の違いを克服することによって、不吉な予言が抱えているパラドクスを解消しようとした。
b　デュピュイは、キリストや預言者ヨナが直面したジレンマに陥ることはなかったが、「ヨナスのパラドクス」にはとらわれ続けた。
c　デュピュイは、投企の時間に立脚して未来の破局を運命として予言することで、現在においてそれを避ける可能性が生まれると考えた。
d　デュピュイは、次期の選挙結果に関する予言が人々の投票行動を誘導しても、予言通りの結果を実現させることはできないと喝破した。
e　デュピュイは、人々が合理的な行動をとり偶然的な事故を避けることで、思うような生活を営むことができるようになったと立証した。

二　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

人と人との「争い」は、1人称と2人称の世界に起こることである。この「争い」は、1人称2人称の世界に「不安」をもたらし、「迷い」を生じる。そしてその争いの種になるものは、「欺瞞（まん）を含むことば」である。わたしたちは、相手の何かに気づいて、それを「ことば」にするとき、そこに自分たちの勝手な解釈を持ち込むことがある。そして一部の人に都合のよい「ことば」が、いつのまにか、周囲の人々に広がる。人を中傷することば、人を誤解させることばが、人間どうしの間に生まれた「ことばの共同世界」（同じ言語社会）のなかに、いつのまにか入り込んでしまっている。すなわち、この共同世界に久しく通じている「欺瞞的ことば」こそ、人々の間の争いを終わらせない元凶であり、それにもとづく人々の「判断」、「行動」が、じっさいに争いを生み、継続させている。したがって、わたしたちはこの1人称と2人称の世界においてこそ、「正しいことば」を必要としている。

しかし、共同世界に通じている「ことば」とは、「わたしたち」という「1人称複数」が共同で抱えている「ことば」である。「わたし一人」（1人称単数）が考えている「ことば」ではない。なぜなら、「ことば」は、もともと「社会のもの」であり、複数の人々に通じるものとしてわたしたちの間に存在しているからである。したがって、ことばはつねに「わたしたちの」ことばである。そして「わたしたちのことば」とは、一般大衆が「認めている考え」を表す「ことば」である。それゆえ、その「ことば」には、「一般大衆の権威」による「裏付け」が与えられている。わたしたちは、この権威に裏付けられた「ことば」を身に付けることによって、ふだん、その共同社会の一員として「考えて、はたらいて、生きている」と言うことができる。

わたしたちは、生まれ落ちたときから社会のなかで育ち、社会に適合したことばを学んで、いずれ社会の中で、社会に役立つ仕事をして生きていくことを期待され、その期待に励まされて育つ。言い換えれば、そのように自分の理性を作って、わたしたちは成人となる。したがって、わたしたちは、共同社会がもつことばを、受け取り、その「ことば」がつくる判断力によって生きることが、その社会で生きることだと考える。その「ことば」から離れることは、その「社会」から離れることを意味する。したがって、[1]通常、社会がもっている「ことば」の「欺瞞性」を、欺瞞であるとは、わたしたちは考えない。生きていくために必要な真実であると、わたしたちは無自覚に受け取っている。

たとえば、日本では、「権利」ということばは「自分の要求を主張してもよい資格」の意味で使われており、他方、「義務」は「しなければいけない」とか、その逆の「してはいけない」の意味で使われ、その結果に「責任」がともなう意味で使われている。

しかし、「権利」と訳された英語はRightである。つまり「正しいこと」である。そうだとすれば、「権利を主張する」ことは「正しいことを主張する」ことである。他方、「義」とは「正」と同義語なので、「義務」とは、「正しいことに努める」の意味である。そうであるなら、「権利を主張することは、人間なら果たすべき義務である」という命題が、本来は、正しいに違いない。ところが[2]日本では「権利を主張する前に義務を果たすべきである」ということが、

あたかも当然の（正しい）ことのように言われている。それに対して、近代市民革命を大々的に起こしたフランスのパリで、市民によるデモが盛んなのは、権利を主張することが人間の義務だという思いが、パリ市民には染みわたっているからだと思われる。

一方、日本人は、パリの騒動を見て、自己中心的な人が多いからではないかと、疑う。［　I　］と黙してはたらく自分たち日本人の「協働的態度」を、わたしたちはむしろ誇るべきことだと考えている。しかし、そう思うのはなぜか、と言えば、組織の上に立つ人が、自分より下の人が、「権利を主張せずに、あるいは、それを優先せずに、義務（命じられた仕事）を果たして」ほしいと、願っている「ずるい思い」が、正当なこととして世間全体に受け入れられているからである。おそらくそのために、権利を主張せずに、義務とか、責任という「ことば」に押しつぶされてしまう人が、日本では多いのである。

じっさい、こういう話を聞いても、「責任のある行動とは、義務を果たすことであって、権利を主張することではない」という主張に、日本人は負けてしまう。日本人が共通にもっている言語世界が、「権利の主張」を「正しいこと」だとは認めないからである。しかし、正しい論理にしたがって、「正しいこと」をするのでなければ、「責任のある行動」にはならない。したがって、権利の主張は、責任のある行動であり、その反対は、無責任な行為なのである。そのように考えずに、「自分は組織に生かされているものとして、個人の権利を主張することより、仕事の義務を果たすべきだ」と自分を説得するとしたら、それはやはり、たんなる自己欺瞞である。

[3]戦後になってイスラエルで開かれたアイヒマンの裁判が明らかにしたことも、この類いのことである。彼はナチス・ドイツで収容所のユダヤ人の大量殺害を指揮した。自分が善悪を判断することを回避して、上官の命令（すなわち、そのとき与えられた義務）をただ実行したことが、悪だと裁かれたのである。そしてこのことが明らかにしていることは、他人の判断に盲目的に従うのではなく、自分で正しい判断ができなければ、後の時代から見て、責任ある行動をとっているとは判断されない、という事実である。しかも、自分の判断が周囲の人と同じ判断であれば正しい、ということではない。つまり「社会的協働性」を自分の行動や判断の尺度とすることは、人類の［　II　］正義ではない、と決定されたのである。

ハンナ・アレントによれば、政権の考えと国民の考えが一致する国が「［　甲　］国家」であり、それに対して政権が国民の考えと一致していなくても、政権の考えのみで力の統治が成り立つ国が「［　乙　］国家」である。中国の国民のように、政府の言うことをあまり信用していない国民を多く抱える国は、［　乙　］国家にはなれても、［　甲　］国家にはなれない。それに対して、ドイツや日本のように、政権の言うことに同調しやすい国民を抱える国家は、容易に［　甲　］の国家になる。それゆえ、「権利」の意味を、分からないように「ずらして教える」日本は、政権に同調して全体主義的になるための広い土壌を、今でも、学校で、インターネットで、日本語の辞書で、作っているのである。

この事実が示しているのは、わたしたちが日常的に使っていることばが、かならずしも「正しいことば」ではない、ということである。みなが心に懐く愛すべき社会の理想とは異なって、現実には、正しいことばだけでなく、欺瞞的なことばが、社会には、辞書の権威に裏付けられて通用している。男性中心主

義の社会のなかでは、女性の立場は、ii貶められるか無視される。その理由は、そういう傾向をもつ「ことば」が、ふつうに男女に共有されているからである。こうして、正しさと欺瞞の両者を併せ持つ「ことば」によって、人間社会は、秩序をもつ集団を、日々、発展させている。したがってまた、逆から見れば、その「ことば」が欺瞞的であってもなくても、共同社会は、それを「正しい」ことだと前提して動いている。

すでに述べたように、社会がもつ「ことば」から個人が離れることは、その共同社会の秩序から個人が離れることを意味する。ところで、その社会がもつ共同価値の秩序は、その中に居る人間の生活の価値を支えている。したがって、個人がそこから離れることは、社会性（優劣の秩序）を背景とした「社会的に意味を持つ人生」から、個人が「離れる」ことを意味する。

言い換えると、そこから離れるとは、自分の行為が社会的評価を得ることができる社会性を、自ら失うことを意味する。じっさい、社会のうちに「優劣」（評価の視点）があることは、その社会が「何に」、あるいは、「どれに」より大きな価値を与えているかを表している。したがって「社会性を失う」ことは、その社会における評価を、マイナスでもプラスでもなく、「無」にすることを意味する。つまり「あなたはまったく価値のない人間だ」と、他者から評価されることを、自ら望むことを意味する。

X

わたしたちは、すでに大規模な集団世界となった共同社会に生まれ落ちている。そこには「共同のことば」がすでにあり、日々、あらたにされている。しかし、共同世界に通じている多数のことばのうち、どのことばが正しく、どのことばが欺瞞的か、その区別が容易につくことはない。なぜなら、ほとんどの人は、その社会に生きていくために、そのことに気づく力を失っているからである。

しかし、そのような中で4「正しいことば」を見つけることは、どのようにしたらできるのか。わたしたちは、共同世界に通じている「ことば」を、生まれ育つうちに学んで身に付けている。つまりそこに通じている「ことば」で、自分の理性を構成している。したがって、すでに［　Ⅲ　］となった「ことば」によって、ものごとを判断している自分の理性がある。その理性によって、どうしたら「正しいことば」を見つけることができるのか。

その方法が問題である。

じっさい、同じ「ことば」を用いる人間は、どの人間も同じ共同世界の住人であり、同じ共同世界から「ことば」を学んでいるから、自分よりも少しでも、より正しいことばを知っている人間を周囲に見つけることは、やはり困難である。つまり、同じ時代の同じ社会のなかで、「だれか」にそれを公的に「教えてもらう」という道は、まずないと言える。

（八木雄二『1人称単数の哲学　ソクラテスのように考える』による）

＊　問題作成上の都合により、本文の一部に手を加えてある。

問1　二重傍線部i、iiのここでの意味として最も適当なものを、後のa～eのうちから一つずつ選びなさい。解答番号は　i－17、ii－18。

i　中傷する
a　権力を振るうことによって、面目をなくさせること
b　人の弱みに付け込んで、精神的に痛手を負わせること
c　褒めちぎることによって、不利な立場に追い込むこと
d　根拠のない悪口を言いふらし、名誉を損なわせること
e　嫌がることをあえて言って、相手を困らせること

ii　貶められる
a　卑しいものとして社会から疎外される
b　劣ったものとしてさげすんで扱われる
c　邪魔なものとして集団から淘汰(とうた)される
d　弱いものとしていたわり守られる
e　忌まわしいものとして皆から避けられる

問2　傍線部1「通常、社会がもっている『ことば』の『欺瞞性』を、欺瞞であるとは、わたしたちは考えない」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 19 。

a　共同世界に通じている「ことば」とは、「わたし一人」が考えている「ことば」ではなく、複数の人たちが用いている「ことば」であり、その人たちと争うことをわたしたちは望まないから。

b　たとえ「欺瞞を含むことば」であっても、そのことばが複数の人たちに通じている場合には、そのことばを身につけ、そのことばが作る判断に従うことが共同世界の中で生きていくことだから。

c　わたしたちは、相手の何かに気づいて、それを「ことば」にするとき、そこに自分の勝手な解釈を持ち込むことによって、自分なりの「ことば」を恣意的につくって使用する習慣があるから。

d　社会に役立つ仕事をして生きていくことを期待されても、それに応えることなく、自分の生きたいように生きようとするのが、正しい意味での権利を主張することであるから。

e　一般大衆の権威による裏付けを与えられたことばが「正しいことば」であるが、そうではない「欺瞞的なことば」の方が、私たちの共同世界では大きな顔をして通用しているから。

問3　傍線部2「日本では『権利を主張する前に義務を果たすべきである』ということが、あたかも当然の（正しい）ことのように言われている」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 20 。

a　市民によるデモが盛んに行われるフランスの国民とは違い、日本人は、生得的に自己中心的ではなく、利他的に物事を捉える国民性を持っているから。

b　権利の主張は責任のある行動であり、その反対は無責任な行動であると考える日本人は、権利を主張することが人間の義務であると思い込んでいるから。

c　日本の社会が持っている「ことば」の世界では、「権利の主張」を「正しいこと」としては認めておらず、「責任ある行動」とは義務を果たすことであると世間に受け入れられているから。

d　他者との争いを好まず、何事を行うにも他者と仲良く協力するべきであるという倫理感を日本人は持っており、論争を好む西洋人には違和感を覚えるから。

e　人間は一人ではなく、社会や組織の中で生きていかなければならず、他者や自己を欺くことなく誠意をもって生きていくべきであると日本人は考えているから。

問4　空欄Ⅰを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 21 。

a　汚名返上　　b　意気軒昂（こう）　　c　唯々諾々　　d　色即是空　　e　捲土重来（けん）

問5　傍線部3「戦後になってイスラエルで開かれたアイヒマンの裁判が明らかにしたこと」とあるが、それはどのようなことか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 22 。

a　自分の考えに基づくことなく、他者の判断に盲目的に従うことは正しい行動ではなく、自分の考えを絶対的なものだと信じ、貫かなくてはならないということ。

b　一般大衆の考えに迎合した行動をとることは自己欺瞞であり、責任ある行動とは言えないが、主体的に善悪の判断を行うことはできるだけ避けるべきであるということ。

c　「全体主義国家」と「独裁国家」では、みんなが心に思い描く社会の理想は異なっているので、自分はどちらの国家を理想とするかを、まず自分で考えなくてはならないということ。

d　周囲の人の判断と自分の判断とが同じであれば正しいということができるわけでもないことからもわかるように、人類にとって正義などというものは存在しないということ。

e　社会が持っている共同の価値の秩序が、その中にいる人間の生活の価値を支えてはいるが、それを自分の行動や判断の基準とすることが必ず正しいわけではないということ。

問6　空欄Ⅱを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 23 。

a　伝統的　　b　現実的　　c　便宜的　　d　相対的　　e　普遍的

問7　空欄甲・乙を補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 24 。

a　甲＝民主主義　　乙＝全体主義
b　甲＝民主主義　　乙＝独裁
c　甲＝独裁　　乙＝全体主義
d　甲＝全体主義　　乙＝独裁
e　甲＝全体主義　　乙＝民主主義

問8　X　に入る、次のア～エの四つの文を正しく並べたものとして最も適当なものを、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 25 。

ア　それゆえ、欺瞞性をもつ「ことば」も、立派に教科書に載り、学校で教えられるのである。
イ　したがって、他者から見て「立派な人生」を送ることを望む人間は、欺瞞性をもっていようとも、社会に通用していることばを、けっして否定できない。
ウ　このことからすれば、法に反した犯罪者の立場は、周囲の社会と価値観（価値の尺度）は一致している。
エ　かえって犯罪者なら、社会がもつ法律という尺度に合致して「あなたはマイナスの価値をもつ」と、明確に判定される。

a　イ→ア→ウ→エ　　b　イ→ウ→ア→エ　　c　イ→エ→ウ→ア　　d　エ→ア→ウ→イ　　e　エ→ウ→イ→ア

問9　傍線部4「『正しいことば』を見つけることは、どのようにしたらできるのか」とあるが、これに対して筆者はどのように考えているのか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 26 。

a　すでに大規模な集団世界となった共同社会で通用する「ことば」を学んで、社会的協働性に従った判断をすれば、私たちは「正しいことば」を見つけることができる。
b　同じ世界に住む人間は、どの人間も同じ「ことば」を用いており、「正しいことば」かどうかの判断はできないので、自らの理性を働かせて、「正しいことば」を自らでつくっていくしか方法はない。
c　共同世界で通じている多数のことばのうち、どのことばが正しくて、どのことばが欺瞞的であるかの区別は簡単にはつかないので、自分なりの解釈を持ちこんで、「正しいことば」にすればよい。
d　同じ「ことば」を用いる人間は、同じ共同世界に住み、その世界から「ことば」を習得しているので、自分より「正しいことば」を知っている人を見つけ、公的に教えてもらうことは難しい。
e　共同世界に生まれ落ちた人間にとって、そこの「共同のことば」が絶対的に「正しいことば」なので、自分にとっての「正しいことば」を求めず、その「共同のことば」を使用していくしかない。

問10　空欄Ⅲを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 27 。

a　前途有為　　b　玉石混淆　　c　理路整然　　d　是々非々　　e　千差万別

問11　次の①～⑤のうち、筆者の考え方にあてはまるものにはa、あてはまらないものにはbをマークしなさい。解答番号は　①－ 28 、②－ 29 、③－ 30 、④－ 31 、⑤－ 32 。

①　「正しいことば」と「欺瞞的なことば」を区別することができないので、仕方なく教科書も「欺瞞的なことば」を用いているために、日本では「権利」と「義務」を区別することもままならない状態である。

②　犯罪者とは、社会が持つ法律に基づいてマイナスの価値を持つとして裁かれた者のことであるが、アイヒマンはイスラエルで開かれた裁判で社会性を失い、まったく価値のない人間であると判定されたのである。

③　社会の内に「優劣」があることは、その社会が「何に」、「どれに」より大きな価値を与えているかを表しているが、その社会と個人の価値の尺度が異なっているような人は罪を犯してしまうことになる。

④　わたしたちが日常的に使っていることばが、かならずしも「正しいことば」ではなく「欺瞞的なことば」も含まれているからといって、そのような「ことば」を用いないと、社会性を失ってしまうことになる。

⑤　「ことばの共同世界」に「欺瞞を含むことば」が入っているために、1人称と2人称の世界では争いが起こるので、この1人称、2人称の世界は一般大衆により裏付けられた「正しいことば」を必要としている。

三

問1　次の漢字の画数として正しいものを、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 33 。

「幣」

a　十三画　　b　十四画　　c　十五画　　d　十六画　　e　十七画

問2　熟語の表記が三つとも正しいものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 34 。

a　造化－安逸－開陳
b　旧交－腹蔵－温症
c　鎮座－赦免－拍楽
d　臨席－考算－拙文
e　償却－顕限－機縁

問3　次の文の、カタカナ部分の傍線部と同じ漢字を書くものを、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 35 。

新事業へのフセキを打つ。

a　人間は天から理性と言語をフヨされた。
b　ゴフを身につけ、神仏に守ってもらう。
c　招待客に向けて、案内状をソウフする。
d　改正憲法をコウフし、世に知らしめる。
e　隣町の学校にフニンすることになった。

問4　次の四字熟語の空欄に使われている漢字の組み合わせとして正しいものを、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 36 。

明鏡□水　――　不□流行　――　一意□心　――　岡目□目　――　傍若□人

a　止――易――専――八――無
b　止――易――専――一――無
c　流――断――潜――八――無
d　流――断――潜――一――侮
e　流――易――潜――一――無

問5　傍線部のことわざ・慣用句の使い方が**正しくないもの**を、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 37 。

a　それじゃあ、まるで雲をつかむ予言だ。
b　とどのつまりプロジェクトチームは解散になった。
c　この場所で神輿（みこし）を担ぐのは迷惑千万だ。
d　木に竹を接いだような、つじつまの合わない話だ。
e　骨をうずめる覚悟で僻地（へきち）に向かう。

問6　ことわざ・慣用句とその意味の組み合わせとして**正しくないもの**を、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 38 。

a　懐が深い――心が広くて、包容力がある。
b　二階から目薬――たまたまうまくいくこと。
c　命の洗濯――日頃の苦労を忘れるための気晴らし。
d　鼻につく――飽きて不快になる。
e　あごを出す――疲れ切って、物事を続けるのが嫌になる。

問7　次の五つの熟語の対義語を1～10のうちから選ぶとき、正しいものがすべて含まれている組み合わせを、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 39 。

「傍観」「没後」「現象」「粗末」「尊重」

1　潜在　2　本質　3　朝日　4　介入　5　卑下　6　大切　7　生前　8　主観　9　賞賛　10　無視

a　1、2、4、6、7
b　2、4、5、7、9
c　2、4、6、7、10
d　1、3、5、6、10
e　2、3、5、8、9

問8　次のカタカナ語の意味を、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 40 。

「ラジカル」

a　戦闘的　b　突発的　c　体系的　d　大局的　e　根本的

問9　大江健三郎の著作を、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 41 。

a　風の歌を聴け　b　仮面の告白　c　限りなく透明に近いブルー　d　万延元年のフットボール　e　海と毒薬

問10　人道主義的傾向が強く、思想的苦悩の結果自らの財産を放棄した作家で、『生れ出づる悩み』や『カインの末裔』などを書いたのは誰か。次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 42 。

a　志賀直哉　b　武者小路実篤　c　有島武郎　d　里見弴　e　柳宗悦